

「むかわ竜」をするのを正す

ニュース 第6号

「「むかわ竜」の名を正されなければならない理由の5つ目は」

この命名によつて、あまりにも多くの貴重なものが失われるからです

樹は根に拠つて立つ、されど根は人の目に触れず

昨年の春から秋にかけて、テレビ視聴者の共感を集めたドラマ「やすらぎの郷」が放映されました。

この最終回。石坂浩二氏が扮する脚本家菊村栄が、脚本家をめざしている青年から、「これからテレvisorを書く自分たちに何か一言を」と色紙を渡されます。菊村栄は色紙に標記の言葉を書いて青年に渡し、次のように話します。

「あそこの庭に一本の立派な木があるだろう。あの素晴らしい木を根元から切つて、自分の庭に移そうとしても、役に立たない。根がないから。木というのは根があつて立つ、でも根は見えない。見えたから忘れる。忘れちまつて、枝ぶりだとか葉っぱだとか実とか花とか、そういうものばかり大事にしてしまう。それだから今のドラマはダメなんだよ。そういうものを大事にしなきや、いいドラマはできっこないのだよ」と。

この色紙の言葉と精神は、このドラマの脚本家倉本聰氏が、

失われようとしている第1は、「化石の里ほべつ」の名です。

「化石の里ほべつ」の名は世界に知れ渡つている
最近の報道を見ても、小林快次北大准教授は、「国内外の研究者やマスコミ関係者から『むかわ町穂別のハドロサウルスはどうなっているか』とよく聞かれる」（資料①）と言い、小西卓哉米シンシナティ大学助教は、「国籍を問わず、世界の研究者にもオープンな穂別博物館のキャラクターが研究発表につながった」（資料②）と話しています。

また、ドイツ恐竜公園で科学顧問を務めるアーミン・シュニット博士は、千葉県で開催された「メガ恐竜展」のギャラリートークで講師をした後、「穂別で発掘された恐竜化石に注目している」と穂別博物館を訪れています。（資料③）

地元紙の苦小牧民報は、恐竜とは別のモササウルスの化石について、「穂別の新種化石が脚光」の見出しで、「すでに同地区で見つかっている恐竜化石を含め、世界の古生物学をリードしていく数々の発見、研究が今後、町の観光、学術、教育等、多岐にわたる分野に好影響をもたらし」（資料④）と、「化石の里ほべつ」が、これまで世界の古生物学をリードして来たと強調します。

全町民配布の「恐竜ワールド構想概要版」に

穂別の名がまったく出でない

しかし、昨年のむかわ町の発行物を見ると、世界に広がった「化石の里ほべつ」の名が消されます。

町が、昨年の「広報むかわ」4月号に折り込んだ「むかわ町恐竜ワールド構想推進計画 概要版」は、A3版の大きなカラー印刷物で「恐竜を活かしたまちづくり」構想を紹介しています。

しかし、この説明文の中には、「穂別」の文字は1回も出てきません。博物館も「穂別博物館」とは書いてません。さらに、旧鶴川町の「四季の館」や「たんぽぽ市場」を「発信拠点」としてそれぞれ2度も書いていますが、北海道新聞が特集記事で紹介した「進化の道」や「地球体験館」（資料⑤）など、穂別の施設や名所のこととはまったく書いていません。

自身が開設した富良野塾でも常に強調し続けていた言葉です。丁度この頃、私たちの「『むかわ竜』の名を正す」取り組みが始まろうとしていた頃で、私は「この言葉がぴったりだ」と思つたものです。

穂別の地層と地域の人たちが創り上げた地域性、それによつて創り上げられてきた穂別の化石文化－このような豊かな根や幹から生まれた恐竜化石を、その部分だけ切り離して「むかわ（鶴川）」に移したのです。

そればかりか、「むかわ竜命名の経過」は、まともな論議も、研究・調査もしないばかりか、後になつて行つた町民への文書説明は、ほとんどが間違いと矛盾のいい加減なものでした。

いつ、どこで、どのように決められたのかも、いまだに明らかにしていません。

このニュースでは、「むかわ（鶴川）」を目立たせる目的だけに恐竜化石を利用した、いい加減で、不正常な行政によって、町民が創り上げてきた多くの貴重な財産と今後の豊かな可能性が失われることを考えます。

強調するのは「恐竜のまち・むかわ」の発信に

そのうえ、その後の「広報むかわ」9月号は、穂別で行われた「むかわ恐竜アカデミア2017」について、「8月5日に『恐竜のまち・むかわ』を発信するイベント『むかわ恐竜アカデミア2017』が穂別のつづじ山公園を主会場に開幕しました」と、「恐竜のまち・むかわ」を発信する」と強調しています。

同じ頃、町の「恐竜ワールド戦略室」が発行している「むかわ竜かわら版」第6号（9月27日付）でも、「（恐竜ワールド）センターでは、こうした体験学習イベントを通じて『恐竜化石の町むかわ』のイメージ普及に努めたいとのことです」と、「恐竜化石の町むかわ」の普及を強調しています。

「広報むかわ」も「むかわ竜かわら版」も、この1年間「化石の里ほべつ」の文言を載せたことは一度もありません。「化石の里ほべつ」の名をなくし、「恐竜のまち・むかわ」に変えようとしているのではないかでしょうか。

「むかわ竜」は、その第一歩ではないでしょうか。

行政が勝手に「化石の里ほべつ」の名を消し、

「恐竜のまち・むかわ」に変えることはできません

「化石の里ほべつ」の名は、「北海道新聞記事」でも「化石とロマンの里穂別」「恐竜の里・むかわ町穂別地区」（資料⑤）と記しているように、地域の人たちが長い歴史をかけ、努力を重ね、日本の愛好家や世界の研究者に知られることになった名です。

町民と議会の論議なしに、勝手に出版物から「化石の里ほべつ」を消し、「恐竜のまち・むかわ」と変えて書くことは、行政の職務を逸脱しており、行政権の濫用です。

私たちは、むかわ町が恐竜を誇りにし、活かすことには大賛成ですが、それは、「化石の里ほべつ」を輝かせることと一体におこなうことが大事だと考えています。

「化石の里ほべつ」があるむかわ町」「恐竜化石の穂別」があるむかわ町」であつて、「恐竜のまち・むかわ」ではありません。

【裏面もご覧下さい】

町外から化石の里ほべつを応援する穂別出身者の会（略称：化石の里ほべつを応援する会）

2018年3月15日

連絡先：E-mail FAX 011-385-8368 田中弓夫

失われようとしている第2は、「穂別の地層」への関心とロマンの広がりです。

小林快次准教授は、恐竜化石について、「全身骨格の恐竜化石が発見された鍵は、埋まっていた地層にある」「世界に誇れる恐竜化石が発見されたことで、日本の研究者たちは、国内で世界に通用するテーマに取り組める」と言います。(資料⑥)

佐藤たまき東京学芸大学准教授は、「穂別は、特定の年代だけではなく、幅広い年代の化石が出ており、生物の生態系解明調査に重要な土地」(資料⑦)と言い、小西卓哉教は、「穂別は、海生化石動物の宝庫」(資料②)と言います。

北海道の天然記念物になつたホベツアラキリュウ(資料⑨)等の

失われようとしている第3は、恐竜化石発掘に到る穂別の先人と住民の功績です

化石の発掘には地域住民の力が大きいのですが、穂別は70年以上も前から全国に先駆けて、地域の人たちと行政が一体に化石文化を育ててきました。そこには、「智性ある 美わしい まちづくり」として、文化を重視して来た穂別独特のまちづくりの歴史があります。

恐竜化石も穂別の愛好家・堀田氏が発掘し、恐竜化石とは考えずに穂別博物館に保管されていたのが、佐藤たまき東京学芸大学准教授の目にとまつたことが発端です。

小林快次准教授は「化石を含む地層が表面に露出すると、風雨の浸食などで骨は散らばってしまうが、穂別の恐竜化石は、一部が地表に出土した段階で地元の化石収集家、堀田良幸さんが見つけてくれた。」と、愛好家の活動が盛んな穂別の地域性を強調します。(資料⑥)

佐藤たまき准教授は「穂別博物館は標本の所蔵が多く、展示施設だけではなく30年以上も専任の学芸員が学術研究をサポートしており、外部の研究者が安心して利用できる」「遠方から来る人が新千歳空港

失われようとしている第4は、次代を担う穂別の人たちの誇りです

いま地方創世、地方再生が各地で強調されていますが、日本の化石文化をリードしてきた穂別の独特のまちづくりの歴史を、次代を担う穂別の人々が、学び、誇りにして、これから穂別とむかわ町を発展させる力にすることが大事です。

失われようとしている第5は、まちづくりのエネルギーです

まちづくりの力は、地域の人たちです。それぞれの地域の人たちが長い時間をかけて培つて来たものを磨き上げ、新しい魅力をさらに付加し、それぞれの地域が相互に尊重し、励まし合い、磨き合うことでこそまちづくりは進みます。それを援助するのが行政の役割です。恐竜化石も、そこに到る「化石の里ほべつ」を創り上げた穂別の人たちの意思が反映され、納得される方向で命名されたのなら、そのこ

と自身が新しいエネルギーをつくるでしょう。

しかし町は、「むかわ竜」と「恐竜のまち・むかわ」の発信のため

に、「ほべつ」の名を使わないようにしています。

大前提で、そのためには「穂別」の名を使わないようにしています。

穂別の人たちの意見をまったく聞かないだけでなく、地域の人た

ちが創り上げてきた宝さえもないがしろにするような行政では、地

域の人たちの力を引き出すまちづくりはできません。

最近の事例では、東京オリンピックエンブレムの撤回です。決定・

使っていても、盗作騒動が起き、撤回が決まりました。

間違いや矛盾が明らかになり、町民にまともな説明もできないことを、「すでに広く知られている」からと続けることなど、今の社会では通用しません。ましてや、自治体ではあつてはならないことです。

失われようとしている第6は、町政への信頼です

町民の意見も聞かず、間違いや矛盾があつてもそのまま勝手に押し通す行政では・・・

「既に商標登録したり、広く知れ渡つたりしているから、変えるのは難しい」と話す人がいます。しかし、これらのこととは、名前を変えたことにはなりません。

商標登録は、申請者以外の人の使用を防ぐもので、申請者に使用を義務づけていません。使わなければ取り消されるだけです。

「すでに広く知られている」と言うのはどうでしょうか。

署名は2月末迄に2158筆（むかわ町以外）寄せられました

道内の54市町村と道外の19都府県から寄せられていました

第5号で紹介して以降、森町、南幌町、音更町と、三重県、岩手県、宮城県が新た増えました

署名は4月末の集約で一旦締め、5月にむかわ町と町議会に提出します。4月末までに送ってください。

*署名用紙や呼びかけ文、ニュースが必要な方は、電話などで連絡ください。自分で「コピーしてもかまいません。